

平成 22 年度研究チーム活動中間報告（第 1 回目）

「異文化接触のダイバーシティ」

No.115 研究幹事：ジョーンズ,ブレント(マネジメント創造学部)

本チームでは、「異文化接触のダイバーシティ」をめぐって、以下の内容で研究会を行った。これらの研究を基に、今後も多様な現実の中から将来の教育と生活への展望を視座に研究を積み重ねたい。

ジョーンズ,ブレント「サービスマネージング (Service Learning) 」

Introduction

The purpose of this report is to provide overviews of (a) progress made so far, and (b) how I plan to proceed with my investigations. The focus of this research is to investigate how service learning influences learning in general and second language acquisition (SLA) in particular. I am especially interested in exploring the affective benefits for a service learning approach to instruction.

Progress

My investigations so far have been focused in two areas: applicability of existing theories of learning, and fieldwork. As for existing theories, I have identified the following as having direct relevance: (a) anxiety, (b) autonomy, (c) attribution theory, (d) experiential learning, (e) multiple intelligences, (f) situated learning, (g) social development theory, and (h) social learning theory. Other theories of learning that have moderate relevance are: (i) cognitive dissonance, (j) elaboration theory, (k) minimalism, (l) repair theory, and (m) structural learning theory. In terms of fieldwork, I planned and conducted a study tour to the Philippines which involved students in educational volunteer activities aimed at two groups: indigenous children on the island of Mindoro, and street children in Manila.

Next Steps

I now have data in the form of ten written reports (3 from 2010, 7 from 2011) from student participants and audio recordings of debriefing sessions. I will conduct a qualitative analysis of the reports and recordings, looking for connections to the above-mentioned theories as well as affective dimensions of SLA, begin writing up my findings, and present these findings in Japan and overseas.

中里英樹「職場におけるダイバーシティマネジメントと子育て支援」

本年度の主要な活動は次の 2 点に分けられる。

- (1) 日本の職場におけるダイバーシティマネジメントの調査・・・日本の企業におけるインタビューやワークショップを通じて、ダイバーシティ・マネジメントや子育て支援の現状について情報を収集した。
- (2) オーストラリアの子育て支援の研究・・・オーストラリアの職場のダイバーシティマネジメントについて考察する前提として、オーストラリアの子育て支援について現地調査のまとめと政策の整理を行った。その結果明らかになった、オーストラリアにおける子育て支援情報とサービスの統合的な提供のあり方について論文にまとめた（「オーストラリアの統合的子育て支援—南オーストラリア州における「子どもセンター」事業と連邦政府による経済的支援を中心に」『甲南大學紀要文学篇』）。

藤原三枝子「外国語および異文化学習における学習者の多様性と言語習得」

2010年度は次のことをおもな研究対象とした：「異文化と言語への憧れと興味」、「ドイツ語を読む実利的必要性」、「海外と関わる仕事への希望」など、多様な理由からドイツ語を学習し始めた学生たちが、コミュニケーション・アプローチの教材および教授法による1年間の指導を受ける中で、彼らの動機づけがどのように変わっていくのか、学習理由と動機づけの変化および学習成果との関連性、動機づけと教科書評価および学習成果との関係性を、おもに質問紙を使って調査し、それを統計的手法により分析した。調査と分析の結果は、2011年3月に台湾・東呉大学で行われた「国際シンポジウム：多言語多文化同時学習支援」で口頭発表するとともに、『2011年多言語多文化同時学習支援 国際学術研究会論文集』（東呉大学）に論文：“Quantitative Forschung über die Lernmotivation der Deutschlernenden im Anfängerniveau im japanischen universitären Bereich - Lernmotive, Lernerwartungen und Lernmotivation in Bezug auf kommunikativ orientierte Lehrmaterialien” として発表した。

原田登美「ソーシャル・サポートによるホームステイでの日本語習得と異文化社会適応」

本年度は、ソーシャル・サポートの観点から、ホームステイでの有益なサポートと有益でないサポートを、留学生のホームステイ評価としてまとめた。また、ホームステイでの経験について、留学生が有益だとする「正の評価」と有益でないとする「負の評価」とは具体的にどのような内容や行為であるのかを、留学生の自由記述による回答を通して、個々の留学生の実際の生の記述から分析を試みた。さらに、ソーシャル・サポートから見たホームステイと日本語習得の関係について、日本語能力はどんなサポートによって向上するのかを考察した。今後、ホームステイというシステムが留学生活の中で、どのような役割を果たし、効用を持つのかを、特に、日本語習得と異文化適応に関連して調査と考察を続ける計画である。